

平成 28 年度 第 3 回北九州市子ども読書活動推進会議(要旨)

- 1 日 時 平成 28 年 12 月 16 日 (金) 10:00～11:00
- 2 場 所 中央図書館 2 階 第 3 会議室
- 3 出席者 [委員]
山元悦子委員 (会長) 他 13 名
[事務局]
古林節子企画調整課主幹他 11 名
- 4 議 題
 - (1) 子ども図書館基本計画について
 - (2) 中央図書館のカフェテリアについて
- 5 主な質疑、意見

事務局

本日のこの会議「北九州市子ども読書活動推進会議」は、第 1 回が 4 月 25 日に、第 2 回は 7 月 14 日に開催しており、本日は第 3 回目の会議となる。

また、本日の会議は公開とし、会議の内容は、前回同様に、後日ホームページに議事録を掲載する。

本日、河井委員は、所用のためご欠席。

なお、今回は、会議終了後に中央図書館のカフェテリアにご案内をさせていただく予定。

では、ここから議事の進行を会長にお願いしたい。

会長

傍聴人がいらっしゃいましたらご入室願う。

事務局

傍聴人はいらっしゃいません。

会長

早速議事について事務局から説明をお願いします。

事務局

本日の議題は子ども図書館基本計画についてと、中央図書館のカフェテリアについての 2 点。

初めに、子ども図書館基本計画について説明する。

概要版をご覧いただきたい。

子ども図書館は中央図書館の一部を改修して整備を行うことになっており、今回の案では、地下 1 階の勝山分館、1 階と 2 階の視聴覚センターなどを改修し、約 2,000㎡を子ども図書館として活用するように計画している。

年間の目標は、貸出者数を約4万5,000人、貸出冊数を約22万冊、来館者数を約20万人と見込んでいる。

また、運営については、中央図書館と同様に、原則として直営方式を採用、窓口業務など、一部業務委託することを検討している。

今後のスケジュールは、基本計画策定後速やかに設計に着手し、来年度設計業務が完了したら工事に着手。

平成30年度内には開館したい。

整備の特色及び具体的な配置計画等については、子ども図書館の特色として3点挙げている。

学校との連携・支援の強化、

シビックプライドの醸成、

子どもの自主性を活かした読書習慣の形成の3点。

子ども図書館内に、学校図書館支援センターを設置し、学校等との連携を強化し、支援の充実を図りたい。

また、保育所、幼稚園、学校等が、クラス単位で団体利用できるように整備を行い、相互に連携できる取り組みを積極的に実施したい。

シビックプライドの醸成については、文学館などと連携し、阿南哲朗、みずかみかずよ等、本市ゆかりの児童文学者の継承コーナーを設置するとともに、本市の歴史、産業、文化芸術等に触れる資料を配置し、さらには子どもたちによりグローバルな視点を育成する、「世界の絵本と地図」のコーナーを併設する。

子どもの自主性を活かした読書習慣の育成については、図書館の行事や館内作業をサポートするなど子どもたち自身が自ら図書館の運営に関われるような図書館を目指したい。

続いて施設整備の考え方。

整備の方針として、閲覧空間をなるべく壁のない開放的な空間とし、蔵書の数にとらわれない、子どもたちがゆったりとくつろげる、快適な読書空間を目指したい。

また、新たにエレベーターを設置し、ベビーカーや車椅子でもスムーズに館内移動ができるよう、利便性にも配慮する。

まず、地下1階の幼児閲覧室は、おはなしルームや幼児専用のトイレ、授乳室などの機能を備えており、事務室・学校図書館支援センター、研修室、ボランティア控え室、閉架書庫など、バックヤード機能もある。

1階は、小学生・中学生・高校生の閲覧室とエントランスホール、シビックプライドコーナーのフロア。

また、新たな機能として、CD、DVDや調べ学習のコーナーを設置している。

エントランスホールには、飲食可能なリフレッシュコーナーを置く予定。

2階にはイベントやワークショップ等を行える多目的室、200㎡以上の広さがあり、イベントや会議内容によっては、パーテーションなどで部屋を仕切って利用するなど、よ

り自由度の高いプログラムを提供できる空間になっている。

また、これまで視聴覚センターで開催していた映画の上映会なども、引き続きここで行うことは可能。

なお、視聴覚センターについては、子ども図書館内において一部機能を継続するが、基本的には八幡西区にある教育センター内に移転することになっている。

最後に、外構整備について。

地下1階の前庭の整備、視聴覚センター入口からのスロープの再整備、一目で子ども図書館があるということを示す「サイン」計画といったものなど、子どもたちが図書館に入って来やすいような工夫をしていきたい。

なお、本日欠席の委員から、2点ご意見を頂いている。

1点目は、「子どもの読書活動推進に向けた関係機関との連携」というところに、「各行政部局との連携」も入れるべきというご意見。

もう1点は、児童文学研究室の名称について、文学に限定しないで「児童資料研究室」といったような名前の方がふさわしいのではないかというご意見。

1点目については考え方を尊重し、連携もしていくが、文言についてはプランの中からの引き写しである。2点目については検討する。

会長

まず質問や確認をいただいて、それから様々な事に関する意見を頂きたい。

委員

地下1階の「おはなしルームの設置」は、「おはなしコーナー」のことか。「ルーム」と「コーナー」のイメージが違うが、その部屋としてくつろげる空間になるのか。

事務局

委員後指摘のように、おはなしコーナーである。

周りをカーテン等で遮断された空間が少しでも確立できるように工夫をする予定。

会長

幼児閲覧室は、案で言うと。

事務局

地下1階そのもの。

図のほうに、「児童閲覧室」と書いているが、これは、「幼児閲覧室」なので、訂正をさせていただきます。

委員

子ども図書館のその特色の中に、「1クラス単位で図書館を団体利用できる運営に努める」というのはとてもいい考えで、ぜひ利用したいが、遠い所から来る場合に休憩する際、研修室が使えるのか。

事務局

幼稚園や保育所がクラス単位で来られた時には、研修室に絨毯を敷いて、ここでイベン

トもできる。研修室を利用していただきたい。

また人数が多いようであれば、多目的室も利用可能。

委員

子ども司書を育てるということで、「中央図書館と連携して」という言葉を入れて、この施策の中でバックアップすることができたらいいと思う。

事務局

組織としては中央図書館と子ども図書館は一体と言っても良い関係で、中央図書館と一体となってやっていくということはもちろんである。

委員

現在各区の図書館で独自の考え方があるが、今後は各地区館に任さないで、子ども図書館自らが考えを統一して、北九州全体の子どもの読書に携わる人の養成をすると良い。

今も養成講座はあるが、行政をとおしての養成というのがあまりできていないような気がする。

また、「学校図書館の連携」で、学校図書館に発信すると、ブックヘルパー止まりになってしまっている。どこの学校がどういうことをしているのか、子ども図書館でしっかり現状を把握して、ステップアップしていけたらいい。

委員

養成に関してだが、九州女子大学には図書館の司書を養成する課程と、学校図書館司書教諭を養成する課程があるので、協力できることがあったらぜひともお声かけいただきたい。

会長

図書館2階の児童文学研究室は、研究や会議も行える大人向けのスペースということか。

事務局

大人が児童文学や文学以外の資料関係についても勉強できるような資料が置いてある部屋というイメージ。

委員

子どもたちから大人に勧めたい本を教えてもらえるような機会をいただけると嬉しい。

子どもの意見は本当に勉強になるので、逆に子どもから教えてもらうスペースと機会を持つてたらと思う。

委員

図書館の中の資料というのは、紙媒体を主というふうにお考えだと思うが、デジタル資料ということも念頭におかなければいけないと思う。デジタル資料に関しての知識と資料収集や提供法、指導者の養成についてどう考えているか。

事務局

「新・北九州市子ども読書プラン」の36の施策の1つに、電子媒体の、「研究」というのが挙げられている。

いち早く取り組んだ所の成果と課題も徐々に挙がってきているが、公共図書館に整備す

るにはまだ課題が多いようである。いずれにしても、今後研究していくことが必要。

会長

CD、DVD コーナーについて、将来的に導入する可能性を持たせるための施設上の設備というはあるのか。

事務局

CD、DVD については、視聴覚センターの機能を一部移すことに関わるもので、子ども向けの CD・DVD のコーナーをここに置き、貸し出しもできるようにする。

W i f i 化は考えているが、どの部屋にどうという具体的なことはまだこれから。

委員

「児童資料研究室」にどういう資料を置くか、ということは大事になってくると思う。

統括機能を果たすところであれば、ボランティアの方だったり、学校の先生方だったり、地区館の司書の方等が、ここでどういうものが閲覧できるかということは意外に大事。

児童の読書推進を支援するための児童の資料、どういうものを置くか。

ここの児童資料、閲覧可能な児童資料も充実をお願いしたいと思う。

委員

関係機関との連携は「文学館、松本清張記念館、漫画ミュージアムを使った連携等」となっているが、「関係機関」というのは果たしてこれだけなのか。いのちのたび博物館、北九州芸術劇場、小倉城、埋蔵文化財センター、ひびきホール、ありとあらゆる子どもの将来の夢につながる素晴らしい施設がある。イベント等で相互の、既存の素晴らしい人との連携を図れないか。

事務局

ここの文章自体は、「新・北九州市子ども読書プラン」をそのまま引用したもので、プランをつくる時に、「等」で結んだと思うが、あくまで例示。関係機関との連携については、イベント等も含め、幅広く取り組んでいく予定。

委員

地下1階はどちらかと言うと幼児向けで、少しにぎやかでもいいというような雰囲気だと思うが、2階は小・中・高校向けになっている。特別支援学校で小・中学部の子どもたちが利用する場合、静かにできない子どもがいたり、音の出る絵本に興味を持っている子どもたちがいるので、地下1階に行くこともある。「幼児閲覧室」と名前を付けてあると、小・中学部の子ども達が入りにくくなる場所もあるので、少しその辺、ネーミングなりを工夫していただけたらいいと思う。

事務局

一般的には「幼児閲覧室」と言っており、今は一般的な呼び方で載せている。

特別支援は当然視野に入っておりぜひ来館してほしい。

その時に小・中・高生の閲覧室はただ静かに本を読むということだけでなく、ここでいろいろなことをしたい、読み聞かせもしたい、ブックトークもしたいというような考えも

あって、1クラス入るようにしているので、特別支援の学校の生徒もぜひここを活用していただきたいと思う。とはいえ幼児閲覧室に行きたい時、そのネーミングに抵抗があるというのであれば、少し考えさせてもらいたい。

委員

先ほどの「子ども図書館に携わる方の直接養成」について、保育所、幼稚園は「学校図書」はなく、司書もいないため、結局保育士や幼稚園の教諭がそのまま担当している。そういう担当者に向けての何か研修を計画してほしい。

また、子どもの読書を進める時にデジタル化が進んでいくと、目で読む「活字離れ」が本当に進んでいくと思うが、新聞を利用した取り組みというのは何か考えているか。

事務局

新聞については子ども新聞を何紙か置いて、そこで活用してもらったり、読んでもらったりしたいと思っている。

委員

中学生が小学生に読み聞かせをすとか、ブックトークをすとか、そういう場所や機会を企画していただければと思う。

委員

「連携」の中で、せっかくある資料を有効活用するということで、いろいろなところにある資料を使っていくということを考えてらいいと思う。

各区の図書館とは図書館システムで連携できているとは思いますが、場合によっては、小学校・中学校に貴重な資料があると思う。

この中で資料を全部構築することは無理かと思うので、分割・分担・保存というような概念から、その辺を把握できるようなシステムづくりができれば良い。

委員

ハード面よりも、結局は人だと思う。子どもたちを支援するそのソフトのほうが、大事だと思っている。実際にどれくらい、どういう人材をどれくらい配置するのか知りたい。

事務局

運営に関しては、案も含めまだこれから。人事や予算のこととかがあるので、今の段階で答えることはできない。考え方として、人数よりもどんな人がそこにいるかとかいうことは、非常に大事な事だと思っている。

委員

視覚障害者の方や聴覚障害の方を対象にした、触れる、触って感じる等、そういう内容のソフト面はどうか。

会長

例えば蔵書のこと、配慮願いたい。

委員

作家を深めるということは、その本の背景がどういう形でできてきたのかとか、その作

家の本をもっと読んでみようということにつながっていくので、作家について紹介するコーナーもただ並べるだけではなく、それをもっと深めるようなことが出来ると良い。

会長

園のバスが駐車するスペースがいると思うが。

事務局

勝山公園一带をどう整備していくかという市としての課題があり、その全体の中で駐車場の話も出てくるのではないかと。

子ども図書館として駐車場を新しく整備するという事は、今のところ考えていない。

会長

中央図書館のカフェテリアについて議事の2をお願いします。

事務局

中央図書館では市民の皆様が気軽に利用していただき、くつろげる空間づくりとして、館内にカフェテリアを整備し、10月8日にオープンした。

カフェテリア内には、文学館や芸術劇場など文化施設と連携したイベントや作家のトークショーなども行っている状況で、好評をいただいている。

中央図書館の本もそのカフェテリア内で読んでいただく、あるいは貸し出しもできるということで皆さんに利用していただいている。

会長

では、今日示されなかったご意見やご質問などがありましたら、会議終了後でも事務局へお伝えいただきたい。

事務局

本年度の会議の開催は、今回で最後となる。

今年度の会議の終了にあたり、会長より一言ご挨拶をいただければ。

会長

3回の会議が今回で終了した。

皆様方の本当に積極的で建設的なご意見が、たくさんいただけて、非常に充実した会議になったと思う。

それを受けて、事務局の尽力でゾーニング案がほぼ出来上がったということが、今年度の成果だったと思う。

次年度は、機能について「こんなことがしたい」「できるんじゃないか」というご意見をいただき、よりよい館とその運営についての議論を深めていきたいと思っている。

皆様方のご協力、どうもありがとうございました。

事務局

次回開催は、新年度に入り6月頃の開催を予定している。

委員の皆様には、日程を調整のうえ、会議の開催のご案内を差し上げたいと思っている。

後日、本日の議事録をまとめ、市のホームページで公開する。